

「能登半島の今 (4)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

能登半島北西部にある「鹿磯漁港」は、能登半島地震で最も隆起が激しかった地域にあります。漁港だけでなく、その周辺の海岸も隆起の影響を大きく受けています。



写真は鹿磯漁港の南東側にある海岸（鹿磯海岸）です。もともと砂浜だった場所ですが、砂浜がかなり沖まで広がっています。テトラポット（波消しブロック）のあたりがかつての汀線（海岸線）だったのですが、現在は陸地にころがっています。地震と津波の影響でしょう、テトラポット自体もバラバラに崩れています。



(グーグルマップ／2023 年 10 月)

写真は同じ場所の震災前の写真です。テトラポットは確かに汀線付近にあり、波はテトラポットを越えて、陸側まで来ています。漁港の場合、防波堤等の観察で「垂直方向の隆起」を実感できます。砂浜の場合、傾斜が非常にゆるいので、汀線が相当に沖に移動するので、陸化される面積の大きさを実感できます。

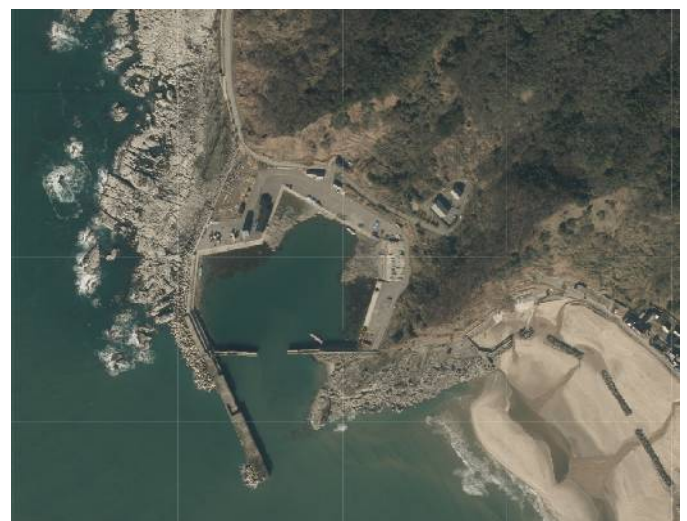


(地理院地図／2025 年現在)

地理院地図（地形図）にも、すでに現在の地形が反映されています。鹿磯漁港の奥（防波堤沿い）の陸化した場所、それに砂浜の拡大が読図できます。砂浜の「・・・」の記号がテトラポットです。



(国土地理院航空写真／震災前)



(国土地理院航空写真／震災後)

鹿磯漁港付近の航空写真を見ると、震災前と震災後の変化が実感できます。鹿磯漁港の奥の陸化した部分

は、地形図の通りです。港の北側の岩場（上長谷崎）の陸地面積も増加しています。特に砂浜の顕著な拡大がよくわかります。

ChatGPT にこの2つの写真を分析させてみました。命令文は以下の通りです。

a は能登地震前の港の航空写真、b は震災直後の同じ場所の航空写真です。隆起によって陸地化した土地の割合を分析してください。

以下が ChatGPT の回答です。

解析の結果、次のことがわかりました。
地震前に海だった部分の総ピクセル数(海域と判定された領域)：約 1,043,539 ピクセル
隆起により新たに陸地化したピクセル数：約 407,272 ピクセル
海域全体に対する陸地化割合：約 39%
つまり、港周辺の「地震前は海だった部分」のうち、およそ 4 割が隆起して陸地化したことになります。

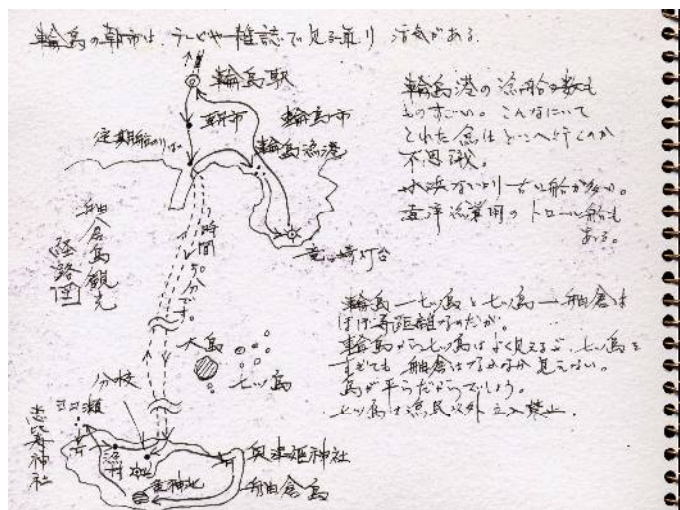
この分析にかかった時間はわずか 15 秒。手作業でしたら数時間かかりそうなので、さすが ChatGPT だと思います。



鹿磯漁港をあとにして、北東側の輪島市方面へ向かいました。このあたりは地震そのものの被害に加えて、その後の大雨の被害で、自動車道に相当の被害がありました。今も倒れそうな樹木や、崩れそうな斜面が随所に残っていて、ちょっとヒヤヒヤしながら運転しました。



途中、完全に復旧されておらず、片側交互通行の場所が何か所もあって、かなり時間を要しました。それでも、道路復旧に関わった方々の努力で、通行止めは一か所もなく、無事に輪島市内に着きました。



輪島市にはかつて何度か訪れたことがあります。1991 年のスケッチブックに詳細な記録が残っていました。当時は輪島まで鉄道がありました。その輪島駅で自転車を借りて、朝市、竜ヶ崎灯台などを巡ったようです。「輪島の朝市は、テレビや雑誌で見る通り、活気がある」と書いてあります。その後、自転車ごと汽船に乗って、輪島の沖にある「舢倉島（へぐらじま）」へ行ったこともわかります。

舢倉島は、能登半島の北、日本海上にある孤島です。輪島から汽船で約 1 時間半、日帰りで往復が可能でした。自転車ごと乗ったのは、舢倉島には自動車がないため、島を自転車で一周したからでしょう。海女さんが活躍する、漁業の盛んな島でした。

非常に標高の低い島なので、震災直後には「津波で全滅した」という噂まで流れていました。しかし、地震が元日に起きたため、ほとんどの島民は島を離れており、人的な被害は 0 だったそうです。